

「戦略的イノベーション創造プログラム（S I P）第2期／
自動運転（システムとサービスの拡張）／社会的受容性の
醸成に向けた戦略策定と評価に関する調査／総合的な戦
略の策定、Web等の情報発信に関する企画及び実施」

2019-2022年度 成果報告書

概要版

株式会社電通名鉄コミュニケーションズ
株式会社住商アビーム自動車総合研究所

2023年3月

<株式会社電通名鉄コミュニケーションズ 受託分>

1. 共同研究の内容及び成果等

(1) 社会的受容性の醸成に関する総合的な戦略の策定

【2019年度の活動】

- 2022年度までの長期ビジョンと2019年度、2020年度の具体的活動案を策定
- 2020東京オリンピック・パラリンピックの主会場となる東京副都心地域を活用した展示会、試乗イベントなどの構想、会場候補地などについて検討を開始
- Webサイトを開設、SNSを活用した情報発信と双方向コミュニケーションを継続的に行う体制を整備

【2020年度の活動】

- 2022年度までの長期ビジョンを確認し2020年度の具体的活動案を策定
- 新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、計画の大幅な見直しを実施
- ウェブセミナーなどのオンラインイベントを拡充、また動画コンテンツを強化

【2021年度の活動】

- 2022年度までの長期ビジョンを確認し2021年度の具体的活動案を策定
- コロナ対応長期化を念頭にwithコロナ施策を検討、メディアを中心に広報ターゲットを明確化し広報活動・イベントをバランス良く実行
- 4月の第1回合同試乗会でメディアを中心に人数を絞りながらも積極的な訴求を行った

【2022年度の活動】

- SIP自動運転の最終年度であることから、将来への橋渡しを意識した展開を提案
- 将来を担うZ世代を中心とした若者世代（ある程度、取組内容を理解をしてもらえると考えられる大学生～若手社会人となる30代前半）を中心に、一般の人へターゲットを拡大し戦略を検討

(2)自動運転に関する情報発信に関する企画及び実施

(2-1) Webサイト及び双方向性の確保を目的としたSNS等の企画・運営

- 2019年度にHP「SIP-Café (https://sip-cafe.media/)」を立ち上げ、その後のレギュラー作業の基礎となる体制を整備した
- ホームページの企画・設計、取材・制作、運営・管理一式を遂行レギュラー作業化した
- 2019年度はSIP-Caféに記事本数108本を掲載
- フェイスブックページ「一緒に考えよう、移動の自由のある未来社会@SIPADUS」を立ち上げHPと連携
- 情報サイト「Response」内にて自動運転特集ページを設置、2020年2月末までで1万ビュー以上獲得、2020年6月まで継続した



SIP-Café トップページ



情報サイト「Response」内特集ページ

- 2020年度は記事200本、2021年度は記事166本を掲載。2022年度は57本(12月末)の記事を掲載

● 各年度の月別ページビュー (PV) 数

年	2020									2021		
月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
PV	7,994	6,361	8,182	10,020	8,366	10,221	11,250	11,416	9,555	9,908	8,043	15,812

年	2021									2022		
月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
PV	12,414	10,017	14,707	13,879	12,820	14,137	12,494	10,345	10,726	10,954	8,940	11,177

年	2022									2023		
月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
PV	10,188	10,782	12,154	10,631	9,268	9,921	9,449	8,346	6,487	7,367	8,125	-

- SIP-Caféの作成と運営については当初計画通りに進行し、多くの記事やその他コンテンツを蓄積できた。雑誌など商業メディアがまだ充実していない自動運転分野において、広く市民が知識を求めることができる数少ないサイトであると自認し、取材記事、動画など最先端感とリアル感を重視した発信を実現できたことは意義深いものとする。
- 新型コロナウイルスの感染拡大の影響はあまり大きくなかったともいえるが、表にはあまり出ていないが取材やその準備などの面でかなりの制約を受けていた。その中で実証実験受託者の取材やイベントのレポートなど外へ出て多くの記事を作成したことは、生活の中で行動の制約を多く受けながら情報を集めている視聴者に対して質の高い情報を発信できたものと確信しており、その面からも有意義な事業であった。

(2-2) マスメディア向けの周知活動の企画及び実施

【2019年度】

- 2019年10月SIP臨海部実証実験の発表会においてメディア誘致を実施。
- 2020年1月オートモティブワールドで葛巻PD、清水和夫氏のカンファレンスを実施。

【2020年度】

- 2020年9月、東京臨海部実証実験取材会をメディア向けに開催、Car Watch／くるまのニュース／カービュー／GLOBE+／カートップに掲載
- 2020年12月、東京臨海部実証実験における自動運転バスの試乗会を実施
- 2021年3月、技術基準セミナー(オンライン)を実施
 - ・ 国土交通省 自動車局 技術 環境政策課自動運転戦略官 多田善隆氏/日本自動車工業会 自動運転検討会 主査 横山利夫 氏 (本田技研工業) を講師に招き実施
 - ・ 760人を超える視聴登録があり常時500人が閲覧した

【2021年度】

- 2021年4月有明の温泉施設駐車場を借用して自動車メーカ、サプライヤ等合同の試乗会を企画、実施 (第1回合同試乗会)。
 - ・ 目的／SIP自動運転における協調領域の取組の成果(高精度3次元地図など)を高度運転支援や自動運転システムの製品化の体験を通しメディアに周知し、SIP自動運転の社会的意義や自動運転の現状への理解を促進した
 - ・ 日程・場所／2021年4月20日(火)~21日(水)／東京お台場 大江戸温泉物語 駐車場
 - ・ 出展者／ヴァレオ、金沢大学、コンチネタル、スバル、ティアフォー、トヨタ、日産、ホンダ、日野・トヨタ 計9社
 - ・ 参加者／SIP自動運転、出展社等とつながりのあるメディア関係者(54社102名が参加)

- 実施概要

- メディア向けの試乗場を提供するとともに、またSIP自動運転の東京臨海部実証実験等についてブリーフィングを実施
- 井上信治内閣府特命担当大臣(科学技術政策)にも世界初の自動運行装置(トラフィックジャムパイロット)等を搭載するホンダ レジエントに試乗いただいた

- 実施者、出展者等の所感、実施者による参加者のコメント等

- ジャーナリスト、各社の技術者や広報担当等も意見・情報交換できるいい機会だった
- ジャーナリストからは、各社の乗り比べができたのでそれぞれの開発ポリシーが、よく理解出来たとの意見があった
- ブリーフィングを定期的に行うことで、SIPの活動についての理解が深まった
- サプライヤからは、臨海部実証実験以外の取組を、普段リーチできないメディアに知ってもらう機会となったとの意見があった

- 露出状況

- 4月21日(水) 朝5時 日本テレビ オンエア
 - ◆ <https://www.news24.jp/articles/2021/04/20/06859573.html>
- 4月22日(木) テレビ朝日 ANNニュース
 - ◆ <https://www.youtube.com/watch?v=M050EWgBLA>



- 2021年10月東京国際クルーズターミナル第2駐車場を中心に、第2回合同試乗会を実施(マスタープランを作成)。
 - ・ 会場借用のために東京都と調整
 - ・ メディアに加え課題評価委員、推進委員の試乗等も予定され、各方面の調整を実施
 - ・ 視野障害の体験テントも準備

【2022年度】

- 2022年10月の第3回合同試乗会の実施に向けたマスタープラン策定と会場調整を行った。
 - ・ メディアに加え一般来場者を想定。学生や教員への告知も行うとともに土曜日を開催日に含め来場を促した
 - ・ 東京都の都有地の借用を働きかけゆとりあるスペースでのイベント開催を実現した
 - ・ プレゼンテーションスペースを設けてセミナーを実施、またJARIやDIVP®など試乗を伴わない展示にも注力し、試乗をしなくても役立つイベントの方向性にチャレンジした

(2-3) 自動運転に関する問い合わせ窓口の設置及び運営

- WEBサイトにお問い合わせ窓口を設置(2019年度)。メールにて問い合わせを受けた場合、3営業日以内に返信をするよう体制整備(～2022年度)。

(3) 情報発信に関する印刷物、解説動画の作成等

【2019年度】

- 印刷物：パンフレット（SIPの活動を紹介する小冊子）2,200部を作成。
- 説明パネル、展示物の制作：ピンバッジ290個（ピンズ230個/ダイバー式30個/ワニ口30個）作成／缶バッジ（2色）2,000個 を作成

【2020年度】

- PR動画：2020年度はコロナ禍の影響で実験が順調でないところや取材がままならない研究主体もあったため、オンライン取材などを駆使し15本を制作しSIP-Café上で公開。また実証実験の現場の取材動画を3本制作し2021年3月の中間成果発表会上で活用された

【2021年度】

- 危機管理広報設計業務
 - ・ 臨海部実証実験において万が一事故があった際、主催者としてどのように対応すべきかマニュアル、ニュースリリース案（既存のマニュアルの修正に加えて事故レベルの軽重想定や実験外事故の案を追加）、想定Q案、メディア対応シートを作成

【2022年度】

- ムック本（誌名：「SIP自動運転の成果とその先へ！」）の制作
 - ・ SIP第2期の最終年度、プログラム進捗の確認と次代への継承を意図
 - ・ SIP第1期の黎明期から9年間を振り返った冊子を、インタビューをベースにして制作
 - ・ 800部を制作し関係者と2023年3月開催の成果展示会にて配布
- 東京臨海部実証実験動画の制作
 - ・ 東京臨海部実証実験のV2Nの説明動画を制作
 - ・ SIP-Caféへのアップ、2023年3月開催の成果展示会における放映などに使用

(4) 東京臨海部実証実験等の場を活用したイベントの企画及び管理

(4-1) 社会的受容性の醸成に資するイベントを企画した。

【2019年度】

- 2020年7月に開催予定のイベントの会場調整、展示内容及びゾーニング基本案の制作を行った

【2020年度】

- 2020年7月開催の当初予定から2021年3月に開催時期を変更(中間成果発表会)、実施設計に先立ち検討を進めるための会場調整とマスタープラン案の制作を行った

【2021年度】

- 2022年度(SIP第2期最終年度)に向けてウェビナー、メディア向け施策、制作物(冊子、動画)などの企画調整、プラン検討を行った

【2022年度】

- 住商アビーム自動車総合研究所受託事業である自動運転LIVE NEWSの告知支援としてPR作業代行等を行った

(4-2) 社会的受容性の醸成を図る観点からのイベント等提案

【2019年度】

- オリ・パラを活用したイベント企画の提案、その他イベントへの出展等（東京モーターショーへの出展企画…検討の上出展は見送り）、東京臨海部実証PR動画の制作提案など

【2020年度】

- 2021年春の中間成果発表会の提案、2020年度以降の市民対話イベント(3月に地域自動運転サミットとして住商アビーム自動車総合研究所により開催)の提案など

【2021年度】

- コロナ禍の下でオンラインを活用したウェブセミナー企画の提案
- 中間成果発表会に連なるメディア向け試乗会を企画・提案（(2-2) マスメディア向けの周知活動の企画及び実施【2021年度】の欄にて既出）
- 2021年10月に実施を検討されたメディア向け試乗会企画

【2022年度】

- 2022年10月に実施を検討されたメディア・一般向け試乗会企画
- 2023年3月を目指した最終成果展示会

<株式会社住商アビーム自動車総合研究所 受託分 (2019年度)>

- 情報発信に関する印刷物、解説動画等の作成
 - ・ 解説動画

YouTube上に、専用チャンネル「SIP café on Tube」を開設、動画（次頁）を投稿、自動運転の技術開発の状況について過信、不信、誤認を防ぐ為の正確な情報発信を実施、自動運転の社会的受容性の向上を図った。



① 自動運転を分かりやすく説明するためのアニメーション（計1本）



② 自動運転技術の現状の開発・実用化の状況

- 現状市販されている自動運転技術を活用した先進運転支援システム（計2本）
 - ・【先進安全運転技術】BMW 3シリーズ ハンズ・オフ・アシスト【試乗レポート】
 - ・【先進安全運転技術】ニッサン スカイライン プロパイロット2.0【試乗レポート】
- CES2020で展示されていた最新の自動運転技術の紹介（計14本）
- 東京モーターショー2019 で展示されていた最新の自動運転技術の紹介(計1本)

③ 東京臨海部実証実験に関する動画（計8本）

<株式会社住商アビーム自動車総合研究所 受託分 (2020年度)>

■ 情報発信に関する印刷物、解説動画等の作成

専用チャンネル「SIP café on Tube」にて以下動画を制作・投稿し、自動運転を取り巻く法制度整備や技術開発、実証実験、実用化、将来像の進捗や中身を、過信、不信、誤認等を抱かせないように留意しつつ分かり易く解説し、またSIP自動運転の各種取組の目的、成果等を解説、PRすることで、社会的受容性の向上を図った。

- 自動運転技術の開発・実用化の最新動向紹介動画
 - 現状市販されている自動運転技術を活用した先進運転支援システム紹介（計8本）
 - 自動運転技術の実用化に向けた最新動向を有識者に聞くオンラインインタビュー（計8本）
 - 地域における自動運転技術の実用化に向けた取り組み等の紹介(計5本)
- SIP自動運転の各種取り組み等の紹介動画（計13本）
- SIP自動運転の各種取組の目的、成果等を解説、PRする動画
SIP自動運転の取組と成果を解説、PRすることを目的として、仮想空間でのシミュレーションによる安全性評価について、業界関係者や一般市民の理解を促進することを目的とした動画を制作し、2021年春の中間成果発表会にて公開した。

<株式会社住商アビーム自動車総合研究所 受託分 (2021年度)>

第1章 「視野障害について考えるSIP-adusウェビナー」報告

視野障害ウェビナー 全3回概要

- ①「視野障害と自動運転」問題の認知、②有病者の運転と就労、③運転支援技術と各回のテーマを展開。
- 参加登録者数は毎回増加。業界紙・ウェブメディアを中心に取材もあり、二次発信効果もあったと考えられる。

各回の概要

■ 第1回「視野障害と自動運転の交叉点」(2021.7.8)

- プログラム・登壇者
 - ・ 冒頭挨拶：清水和夫氏
 - ・ 基調講演①「技術を育てる - iPS細胞と自動運転の共通点」：高橋政代氏（神戸アイセンター病院研究センター長）
 - ・ 啓発動画「緑内障運転絵巻」（国際交通安全学会制作）
 - ・ 基調講演②「症例紹介『運転外来の現場より』」：國松志保氏（西葛西・井上眼科病院 副院長）
 - ・ 代表質問・視聴者Q&A：高橋政代氏、國松志保氏、伊藤誠氏（筑波大学教授）、岩貞るみこ氏
- 参加者数：登録**335名**（一部運営側を含む）
- メディア掲載：交通毎日新聞、Merkmal

■ 第2回「運転免許と視野障害～有病者の運転と就労を考える」(2021.9.2)

- プログラム・登壇者
 - ・ 冒頭挨拶：清水和夫氏
 - ・ 基調講演「警察庁の免許制度と視野画像学会の取り組み」：岩瀬愛子氏（たじみ岩瀬眼科院長、警察庁「高齢運転者交通事故防止対策に関する調査研究」分科会構成員）
 - ・ 「視野障害ドライバーに対する企業の対応例」：岩貞るみこ氏
 - ・ 代表質問・視聴者Q&A：高橋政代氏、國松志保氏、岩瀬愛子氏、岩貞るみこ氏
- 参加者数：登録**391名**（一部運営側を含む）
- メディア掲載：Response.、グーネットマガジン等

■ 第3回「視野障害と運転支援システム ～技術の現在地と未来～」(2022.1.11)

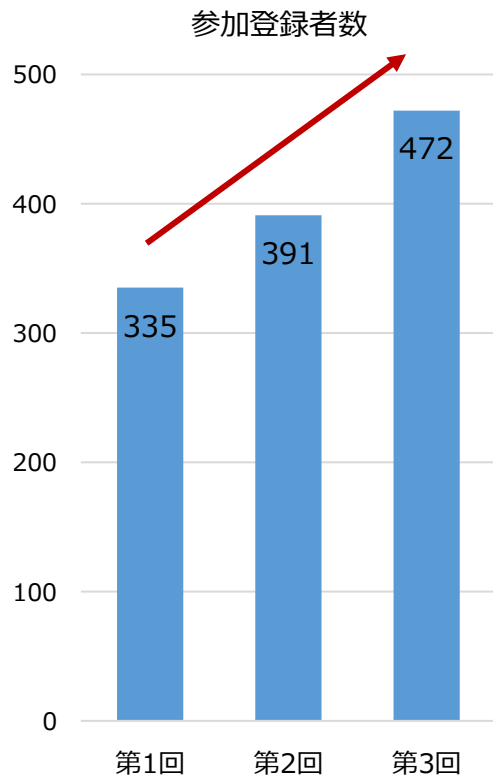
- プログラム・登壇者
 - ・ 冒頭挨拶：清水和夫氏
 - ・ 基調講演①「高精度大型DS（ドライビング・シミュレータ）を用いた視野障害を有するドライバーの視認行動のモデル化と運転支援システムによる事故低減効果シミュレーション」：名古屋大学未来社会創造機構 特任教授 青木 宏文 氏
 - ・ 基調講演②「先進運転支援システムの最新開発状況と今後の展開」：株式会社本田技術研究所 先進技術研究所 エグゼクティブチーフエンジニア 杉本 洋一 氏
 - ・ パネルディスカッション・視聴者Q&A：青木宏文氏、杉本洋一氏、小出直史氏（大阪大学 特任准教授）、清水和夫氏
- 参加者数：登録**472名**（一部運営側を含む）、実視聴356名
- メディア取材・掲載：日刊自動車新聞（WEBメディア「リガーレ」有料記事）、医療ジャーナリスト（掲載未確認）

視野障害ウェビナー アンケート分析(1)

- 参加人数は増加を続けた。参加者の属性は、一貫して「40-60代」「男性」が多い傾向が見られた。

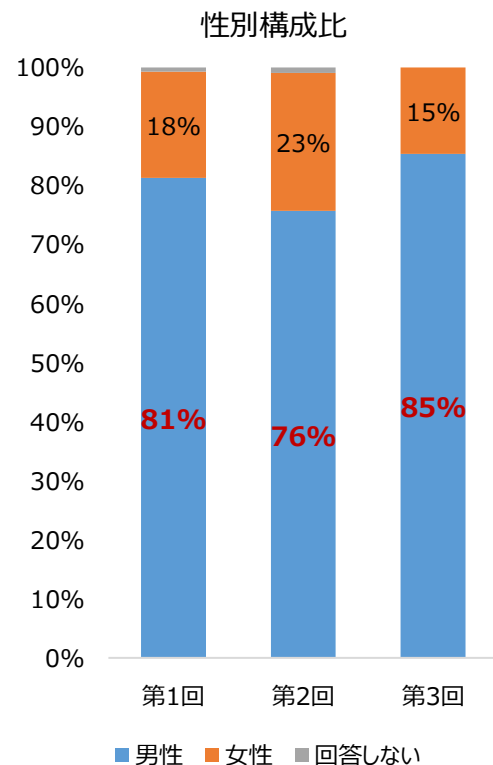
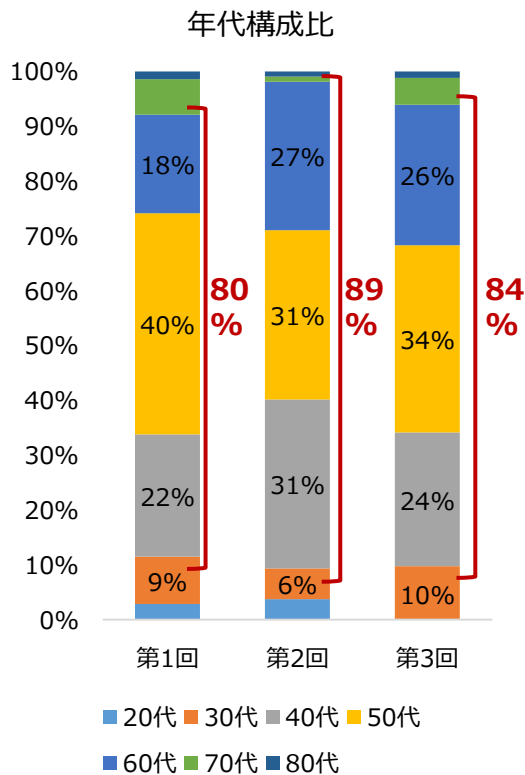
参加人数

▶ 広報活動の拡充とリピート参加により増加。



参加者属性

▶ 一貫して、年代は40-60代が80%台、性別は男性が70-80%台を占めた。

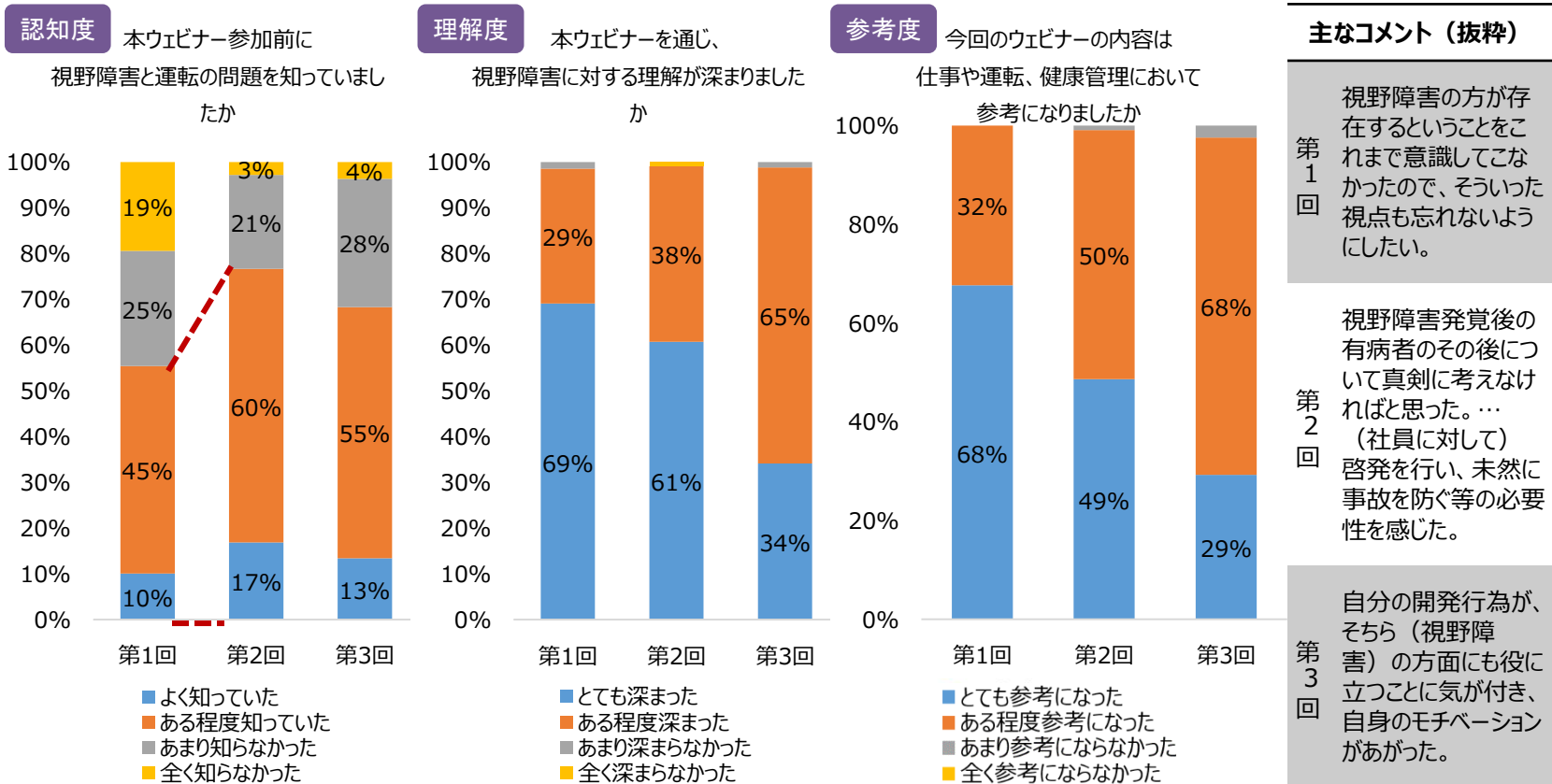


視野障害ウェビナー アンケート分析(2)

- 医療中心のテーマだった第1回・第2回を比較すると、「視野障害と自動運転」問題の認知度が向上した。

参加者の反応

- ▶ 第1回・第2回は医療中心のテーマで参加者の重なりも大きかったと考えられる。このなかで「視野障害と自動運転」問題の認知度が上昇した。
- ▶ 理解度や参考度については各回で内容が異なるため比較は困難だが、認知度の上昇に伴い“新鮮さ”が低減していった可能性は考えられる。



SIP café on Tubeを通じた動画による広報活動

■ I. 企画趣旨

- SIP自動運転の各種取組（仮想空間でのシミュレーション、交通環境情報の活用促進等）やその他の最新動向について、業界関係者や一般市民の理解を促進することを目的として、各種動画の制作・発信を行った。
- なお、解説動画の作成にあたっては、自動運転を取り巻く法制度整備や技術開発、実証実験、実用化、将来像の進捗や中身について、過信・不信・誤認等を抱かせないように留意しつつ、SIP自動運転の各種取組の目的・成果等を分かりやすく解説・PRするよう留意した。

■ II. 実施内容

- 2021年度に計72本の動画を作成し、YouTubeチャンネル「SIP café on Tube」に掲載した。内訳は下表の通り。

#	カテゴリ	本数
1	視野障害と運転の問題に関する動画（視野障害ウェビナー等）	13
2	地域交通に関する動画（市民ダイアログ、地域自動運転サミット等）	12
3	東京臨海部実証実験に関する動画	11
4	試乗レポート、SIP合同試乗会等	11
5	「自動運転見聞録」（各地域のサービス・実証実験等の紹介）	11
6	技術セミナー	10
7	安心・安全に関する「令和の緊急提言」	2
8	DIVP紹介動画	1
9	法整備セミナー	1

SIP café on Tubeを通じた動画による広報活動

■ I. 企画趣旨

- SIP自動運転の各種取組やその他の最新動向について、業界関係者や一般市民の理解を促進することを目的として、各種動画の制作・発信を行った。
- なお、解説動画の作成にあたっては、自動運転を取り巻く法制度整備や技術開発、実証実験、実用化、将来像の進捗や中身について、過信・不信・誤認等を抱かせないように留意しつつ、SIP自動運転の各種取組の目的・成果等を分かりやすく解説・PRするよう留意した。

■ II. 実施内容：22年度(23年3月5日現在)の制作・掲載実績は以下の通り。

公開日	映像タイトル
2022/4/26	ニッサン グラウンド・トゥールース・パーセプション技術【先進安全運転支援技術・試乗レポート】
2022/5/16	マツダMX-30 Self-empowerment Driving Vehicle【運転支援技術・試乗レポート】
2022/5/21	第2回 KYOTO楽Mobiコンテスト 第1回 事前イベント「京都の課題を深堀しよう！」【龍谷大教授・京都市ほか登壇】
2022/6/3	スバル BRZ アイサイト【先進安全運転支援技術・試乗レポート】
2022/6/7	住友ゴム センシングコア【先進安全運転支援技術・試乗レポート】
2022/6/13	スバル レヴォーグ アイサイトX【先進安全運転支援技術・試乗レポート】
2022/6/20	トヨタ MIRAI アドバンスドドライブ【先進安全運転支援技術・試乗レポート】
2022/09/13	BMW iX3 ドライビング アシスト プロフェッショナル【先進安全運転支援技術・試乗レポート】
2022/9/16	キャデラック XT6【先進安全運転支援技術・試乗レポート】
2022/09/20	ルノー ルーテシア E-TECH HYBRID イージードライブ【先進安全運転支援技術・試乗レポート】
2022/09/22	BMW i4 M50 ドライビング アシスト プロフェッショナル【先進安全運転支援技術・試乗レポート】
2022/10/10	三菱アウトランダー マイパイロット/e-Assist【先進安全運転支援技術・試乗レポート】
2022/11/30	スズキ アルト スズキセーフティサポート【先進安全運転支援技術・試乗レポート】
2023/2/22	東京臨海部実証実験「V2N = Vehicle to Network」
2023/2/22	トヨタ ヴォクシー セーフティセンス【先進安全運転支援技術・試乗レポート】
2023/3/5	SIP自動運転 第3回合同試乗会【Part1】
2023/3/5	SIP自動運転 第3回合同試乗会【Part2】
2023/3/5	SIP自動運転 第3回合同試乗会【Part3】

SIP café on Tubeを通じた動画による広報活動 ～成果と考察

■ 成果

社会の幅広い層に対し、自動運転技術の社会実装に向けた取組や最新動向を訴求することを目的として取り組んできた結果、以下の通り多くの方々にご視聴いただくことができた。

- SIP café on Tubeチャンネル登録者数：921人(2023年3月23日現在)
- 同 延べ視聴回数：151,167 回(同上)
- 主要コンテンツ視聴回数
【先進安全運転支援技術・試乗レポート】
 - BMW 3シリーズ／ハンズ・オフ・アシスト：1.1万回
 - ボルボV60／インテリセーフ (INTELLISAFE)：9,761回
 - メルセデス・ベンツ Sクラス／インテリジェントドライブ：5,999回、など

■ 考察

上記の通り、数多くの方々にご視聴いただけた一方で、より一層の浸透・機運醸成を図るには、接点(SNSチャンネル)の多様化への対応や、よりインタラクティブなコミュニケーションによる関心喚起の他、自動運転技術や車両を実体験できる場の提供なども必要になると思われる。

DIVP事業化記者発表／KYOTO楽Mobiコンテスト最終選考会・表彰式 運営支援

- 「DIVP (Driving Intelligence Validation Platform) の事業化・会社設立に関する記者発表会」、 「KYOTO楽Mobiコンテスト」における運営支援を行い、当社は主に撮影・配信部分を担当しました。

DIVP事業化・会社設立 記者発表会

2022年9月6日 @JP TOWER Hall & Conference

DIVP® (Driving Intelligence Validation Platform) 事業化および会社設立に関する記者発表会

2022年9月6日



KYOTO楽Mobiコンテスト 最終選考会・表彰式

2022年12月11日 @京都リサーチパーク

第2回 KYOTO 楽 Mobiコンテスト

最終選考会・表彰式
(同時開催：Society5.0に向けたモビリティデータ活用セミナー)



本報告書は、国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)が管理法人を務め、内閣府が実施した「戦略的イノベーション創造プログラム(SIP)第2期／自動運転(システムとサービスの拡張)」(NEDO管理番号:JPNP18012)の成果をまとめたものです。